

2011

10

October
vol.160

潮田益子



工藤重典



吉野直子

FOCUS

10.12水 水戸芸術館復興支援チャリティー・コンサート“芸術の灯を再び”

潮田益子、工藤重典、吉野直子による祈りと希望の音楽

text: 中村晃

3月の東日本大震災以来、水戸室内管弦楽団(MCO)のメンバーをはじめ、多くの演奏家の方から、水戸の状況を案じ、「水戸の力になりたい」というメッセージが届けられました。これらの温かな言葉を受け、4月、5月には、MCOの国内メンバーを中心にチャリティー・コンサートを開催しました。また、7月には、MCO第82回定期演奏会の後、東京・サントリーホールにてMCOメンバーが無償で演奏会を実施、その収益は被災地に寄付することとなっております。

あの震災から間もなく半年が過ぎようとしています。水戸芸術館は、おかげさまで、7月から活動を再開することができました。しかし、震災の痕跡は今もなお、水戸の街のいろいろな所に、留まったままです。水戸芸術館でも、3,283本のパイプのうちおよそ1,000本が被害を受けたパイオルガンなど、これから修復が必要な楽器や付帯設備がまだ残されています。

一方、演奏家の方からの支援の声は、今日もなお届けています。そして、この秋、MCOの中心メンバーとして活躍する潮田益子さん(ヴァイオリン)が、ボストンから駆けつけてくれることになりました。さらに、MCOに無くてはならない存在の工藤重典さん(フルート)、MCOとの共演で数々の名演を繰り広げてきた吉野直子さん(ハープ)も、水戸のさらなる復興に手を差しのべてくれることになりました。

今回のコンサートで、潮田益子さんが選んだ作品は、バッハの〈無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番〉。バッハ屈指の傑作として数え上げられる、深い精神性を湛えた作品です。

工藤重典さんの独奏ステージでは、アルゼンチン・タンゴの革命児・ピアソラによる〈タンゴ・エチュード 第3番〉が披露されます。さらに、フルートの優美で幻想的なメロディが奏されるドビュッシーの〈シランクス〉をお楽しみいただきます。

吉野直子さんの独奏ステージでは、ブラームスの〈間奏曲 作品117の1〉と優美で繊細なハープの魅力を最大限に引き出したフォーレの名作〈即興曲 作品86〉が披露されます。

また、工藤さんと吉野さんのデュオで、20世紀のフランスの作曲家ダマーズによる〈フルートとハープのためのソナタ 第1番〉が演奏されます。

3人の名手によるこのコンサートが、皆様の未来に向かって生きるための元気の素になりますことを、願っています。

“芸術の灯を再び”

～潮田益子、工藤重典、吉野直子による
祈りと希望の音楽～

10/12(木) 19:00開演 (18:30開場)

全席指定 一般¥3,000 学生¥1,000

曲目 フォーレ：ハープのための即興曲 作品86
ドビュッシー：独奏フルートのための

シランクス (パンの笛)

ダマーズ：フルートとハープのためのソナタ

第1番

J.S. バッハ：無伴奏ヴァイオリンのための

パルティータ 第2番 BWV1004 ほか

*本演奏会の収益は、水戸芸術館の復興のために使わせていただきます。

message from 潮田益子

水戸の皆様へ

この度の大震災で、大変な思いをされた方々、今なお不自由な毎日を送られている方々には、心からお見舞い申し上げます。

そして、この水戸の町も、水戸芸術館も大きな被害を受けられたと伺い、とてもびっくり致しました。私は、この水戸に来る度に、水戸の町の人々、聴衆の皆様、そして芸術館のスタッフの方々に、いつもあたたかいお心づかいと応援をいただきまして、とても感謝しております。その皆様の支えがあったからこそ、水戸室内管弦楽団を長い間続けてこられたと思っています。

そこで、私が何か皆様のお役に立つことができるとしたら、ヴァイオリンを弾くことしかありません。

今回のコンサートでは、皆様が少ない時間でも音楽の世界に浸っていただき、少しでも皆様のお気持ちに希望の光を灯すことが出来たらと思い、一生懸命弾かせていただきます。

これからも、いろいろと困難な事があっても、それを振り切って力強い水戸の町となられることを、期待しております。

潮田益子

2011年8月 ボストンにて

音楽 × アート 一日かぎりの豪華コラボレーション!

text : 高巢真樹



中川賢一



小坂圭太



なかじまゆうゆ

アート好きな人が音楽の躍動感にドキドキしたり、音楽好きな人がアートの表現の自由さにワクワクしたり…ジャンルの垣根を飛び越えて子どもも大人も楽しめるのが、「みる☆ハルサイ 2台ピアノでストラヴィンスキー」です。この演奏会では、20世紀の大作曲家イーゴル・ストラヴィンスキーの三大バレエとして知られる〈火の鳥〉、〈ペトルーシュカ〉、そして〈春の祭典〉(通称“ハルサイ”)を、2台ピアノの演奏と刺激的な演出でお楽しみいただけます!

注目の出演者・演出家

演奏は、ピアニストの中川賢一さんと小坂圭太さん。昨年の「リゲティの肖像」で、このお二人がピアノ音楽の限界を打ち破るような難曲を鮮やかに聴かせてくれたことは、記憶に新しいですね。今回も、この二人ならではのダイナミックかつ多彩な表現で、作品の魅力を余すところなくお楽しみいただけるでしょう。構成・演出は、宇井孝司さん(演出家・脚本家)。もともとは、あの世界的漫画家・

手塚治虫さんのもとで仕事をされています。そんな宇井さんのアニメーションの代表作には「森の伝説」(手塚治虫との共同監督)、「ジャングル大帝」、「リトル・マーメイド」、「葉っぱのフレディ いのちの旅」など、いずれも名作揃いです。最近では、演奏会のファンタジーあふれる演出や脚本で高く評価されています。

音楽と朗読やアニメーションのコラボ

最初にお聴きいただくのは〈ペトルーシュカ〉からの3楽章。華やかな民族色や斬新な演奏技法がとりいれられた作品で、“ロシアの踊り”“ペトルーシュカの部屋”“謝肉祭の日”の3楽章からなります。今回は、この日のために宇井さんが書き下ろした脚本「ペトルーシュカ もうひとつの物語」を、声優・なかじまゆうゆさんの生き生きとした朗読でお楽しみいただけます。

次に、当時まだ無名だった28歳の作曲家が一夜にして注目を集めた、三大バレエの第1作〈火の鳥〉。魔王に囚われた13人の王女を、若い王子が火の鳥の

力を得て助け、中でも特に美しい王女と結ばれるストーリーです。今回はさらに、手塚治虫さんが描いた漫画界の金字塔『火の鳥』の画も登場します! 手塚さんご自身も音楽が大変好きだったようですが、この度なんと特別に、原画を多数お借りし、宇井さんがそれを独自に構成して、生演奏を伴った映像としてご覧いただけます。

最後は、20世紀音楽史上、最も特筆すべき作品の一つ〈春の祭典〉。「大地の神への生贄に選ばれた少女が死ぬまで踊り続ける」という構想で書かれ、爆発的なエネルギーに満ちた音響や、協和音と不協和音の喧噪の中で刻まれる独創的なリズムなど、大地の根源的な生命力溢れる作品です。8月28日に中川さんたちと小学生は、この曲をテーマに絵を描くワークショップを行いました。この公演では、その多彩な絵がオリジナル映像の中でアニメのように動き出します。音楽と映像の夢のようなコラボレーションを、どうかお見逃しなく!



©TEZUKA PRODUCTIONS

中川賢一さんからのコメント

〈春の祭典〉は20世紀を代表する曲です。ワークショップでは、それをもとに子供が自由に想像を広げて絵を描くのですが、今から世界を切り拓く子供から新しい創造が生まれそうでとても楽しみです。コンサートでは、それと1913年に新しい時代を開拓したストラヴィンスキーと一緒に、実にクリエイティブだと思います。単に「音楽を聴いて」「絵を見て」面白いだけではなく、それがあわさって3倍以上面白くなる。普通では絶対聴けない内容ですので、ぜひ皆さんいらしてください!

宇井孝司さんからのコメント

ストラヴィンスキーを聴くととても自由さを感じるので、それをうまく発露できたら面白いと思っています。音楽に絵をつけるとイメージが固定化されがちですが、そうではなく、自分なりのイメージがさらに広がり、それがまた音楽にかえっていかばと願っています。

(8月18日 東京にて 聴き手: 高巢)

CAFE in Mito 2011 関連企画
「音楽 × 子ども × アート」プロジェクト
みる☆ハルサイ
2台ピアノでストラヴィンスキー
10/1 (土) 14:00開演 (13:30開場)
会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席指定 一般¥1,200 (「CAFE in Mito2011」展
入場券提示の方は¥1,000)
小学生 ¥800
出演 中川賢一、小坂圭太 (ピアノ)
なかじまゆうゆ (声優)
構成・演出 宇井孝司 (演出家・脚本家)
曲目 ストラヴィンスキー:
〈ペトルーシュカ〉からの3楽章
火の鳥 (抜粋)、春の祭典
(以上、2台ピアノ版)
協力 株式会社クロニクル
株式会社手塚プロダクション

鈴木大介（ギター）—— ソロで、デュオでギター三昧

鈴木大介、 音楽家としての今を語る

interview：高巢真樹

10月の「ちよっとお昼にクラシック」は、クラシックやジャズ、映画音楽など多彩な演奏活動で独自の境地を開拓し続けるギタリスト・鈴木大介さんが登場！鈴木さんの美しいソロや、若手実力派ギタリスト・松尾俊介さんとの粋なデュオで、ギターの奥深い魅力に迫ります。

——小さい頃好きだった音楽や、ギターを始めたきっかけは？

家ではもともとジャズやアルゼンチン・タンゴばかり流れていたためか、早くから自分でも洋楽に親しんでいました。ギターを始めたのは小学2年生。若い担任の先生がある日教室にギターを持ってきて突然弾き始めたことがあって「あ、ギター弾きたい！」と思ったのがきっかけ。中学に入るとジャズ・ギターも始め、古いブルーノートのレコードも聴いていました。」

——鈴木さんは大学時代にマリア・カナルス国際コンクールで入賞。卒業後はザルツブルク・モーツァルテウム音楽院へ留学。帰国すると作曲家の武満徹から高い評価を受け、現在に至るまで着実に活躍の場を広げています。

わらしべギタリストではないですが、本当にその時々目の前にあったものを掴んでここまで来ました。でも実は、僕が弾くものを聴きにきてくれる方がいるという自覚が芽生えたのは、最近になってから。それまでは、ジャズの大御所と共演させてもらえたら、子どもの落書きみたいなアドリブを平気で弾いたり、自分のやりたいことを好きにやっていた。ただ一方で、どう弾くのが自分らしいのか、音楽の深みにどう到達するか、常に模索していました。2007年頃には、自分と聴衆の方のコミュニケーションが良い形で成立し始めたと感じたけど、まだ自分の一方的な投げかけだった気がします。

それが最近では、お客様の反応にいい意味で敏感になった。舞台上では美しい音楽を奏でることが全て。それまでのプロセスを断ち切って「その日その舞台」に集中

するには、お客様の中にある「良い鈴木大介像」を汲み取ること。するとスパッと良い状態の自分になりやすいと気付いたのです。

——そう変化したきっかけは何だったのですか？

昨年末に、小澤征爾さんが芸術監督を務めた「Japan NYC」(=カーネギーホールをはじめニューヨーク市各地で行われた日本芸術祭)のため、渡辺香津美さん(ギター)、cobaさん(アコーディオン)、ヤヒロトモヒロさん(パーカッション)と組んでいるバンドで公演を行ったことでしょうか。これは武満真樹さんの呼びかけから2008年に立ち上がったバンドですが、あの方たちは非常にパワフル。感激を越えてさらに新鮮な驚きを生み出すのですが、僕は「この人にこたえる時はこんな音」などと思いながら演奏する。その際、大事なのががむしゃらに自分を犠牲にすることではなく、「いいパスを出す」ことだと分かった瞬間があった。音楽ってテクニカルな面も多々ありますが、演奏家同士のその場のやりとりや会場の空気感が乗かって動き出して、はじめて「いい演奏」になる。それからは、ミュージシャンの関係性はもちろん、お客様が抱えている期待感やその場の雰囲気などを気にかけるようになった。すると自分がどんな音楽をやるべきか、分かるようになったのです。

——今、音楽家として大切にしたいことは？

「人の喜ぶ顔が見たい」ということ。やはり震災後の演奏会が多かったことの影響かもしれません。僕は被災地や、震災で壊れたホールに行きましたが、現地の方の表情やお話から様々なことを感じました。3月末に共演したジャズの巨匠たちは、皆その日の自分とおお客様の気持ちにセンシティブで、そこからも多くを学んだ。僕も「人は今どんなものを聴きたいか」「今日はどんなレシピで行こうか」など考えながら、演奏活動したいです。

——今回のプログラムの聴きどころを教えてください。



鈴木大介



松尾俊介

前半は僕のソロですが、1曲目にはバッハの組曲BWV1006aのプレリュードを選びました。これは、バッハ自身がカンタータBWV29の「神よ、われら汝に感謝せん」のシンフォニアに使用しています。人は何百年も前から希望や勇気、元気などを音楽に込めてきましたが、それが感じられるコンサートになればと思います。他にも、古い時代や遠い場所に想いを馳せるような曲を並べました。後半には「ニュー・シネマ・パラダイス」や今年生誕100年のニーノ・ロータの映画音楽、ピアソラの作品などを、松尾俊介さんと僕ならではの軽妙洒落なデュオでお楽しみいただきます。

——共演する松尾俊介さんはどんなギタリストですか？

さすが京都生まれと思うのですが、雅やかで品がいい。それは大人しいということではなく、色彩も豊かだしメロディの歌い方もとても印象的。どこかで高貴な感じがするギタリストですね。

——最後にお客様へのメッセージを。

今回は、昔にタイムスリップする曲やモダンなエスプリに富んだ曲など、色々なギターの音色を楽しんでいただけたらと思います。ギターは、ホールが良いほど深く楽しめる楽器。本当にいいギターがいいホールで鳴ると、空気全部がふるえて、ギターの音にさわる感覚が味わえる。ぜひ「ギターってこんな音がするんだ!」と感じていただければ嬉しいです。

ちよっとお昼にクラシック

鈴木大介——ソロでデュオでギター三昧

10/22 (土) 13:30 開演 (13:00 開場)

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM

全席指定 ¥1,200 (1ドリンク付き)

出演 鈴木大介(ギター)、松尾俊介(ギター/ゲスト)

曲目 J.S. バッハ: 組曲 水長調 BWV1006aより

プレリュード、ロンド風ガヴォット

タレガ: アルハンブラ宮殿の想い出

モリコーネ: ニュー・シネマ・パラダイス

ニーノ・ロータ: 8 1/2

ピアソラ: 〈タンゴ組曲〉より「テチーソ」

ほか

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター：029-231-8000
営業時間：9:30～18:00（月曜休館）

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門：029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

チケット・インフォメーション

《9月24日（土）発売分》

■クリスマス・プレゼント・コンサート 2011

12/23（金・祝）17:00 開演

料金 [全席指定] A席 ¥3,000 B席 ¥2,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり（20席以上） △…残席わずか（20席未満） ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎ちよっとお昼にクラシック

川本嘉子（ヴィオラ） & 三船優子（ピアノ）
—ふたりのミュージックによる素敵な音楽の語り—

…………… 9/22（木）中央△、左右・裏○

◎みる☆ハルサイ 2台ピアノでストラヴィンスキー

…………… 10/1（土）中央○、左右○

◎水戸芸術館復興支援チャリティー・コンサート

“芸術の灯を再び”
～潮田益子、工藤重典、吉野直子による祈りと希望の音楽～
…………… 10/12（水）中央△、左右・裏○

◎ちよっとお昼にクラシック 鈴木大介

—ソロでデュオでギター三昧—
…………… 10/22（土）中央×、左右・裏○

◎内田光子 ピアノ・リサイタル

…………… 11/1（火）中央×、左右・裏○

◎水戸うらら女声合唱団

…………… 11/23（水・祝）中央○、左右・裏○

◎小川瞳 ピアノ・リサイタル

…………… 11/27（日）中央○、左右・裏○

※8/30（火）現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証（記名章）をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせください。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

編集後記

最近また、ネット通販にハマっています。手軽さはもちろん、期待通りのものが届くかわからないという、賭けにも似たところが醍醐味です。お財布事情は厳しくなるばかりですが…日本の経済に貢献できていますよね？（り）

食欲の秋とはよく言ったものです。梨や桃が出回り始めてから、秋の食材を思うとワクワクしてしまいます。キノコにカボチャにサンマに乗ると好物ばかりが旬の秋。胃が最低2個は欲しい今日この頃です。（og）

ラーメンが好きだ。昔、原稿の執筆で行き詰まっていたとき、ラーメン屋に入ってメニューを眺めていたら、不思議とアタマの中が整理できたことがあった。それ以来、疲れ気味のときにはラーメン屋に通っている。（篠）

演出家の鈴木敬介氏がお亡くなりになった。特に故・若杉弘氏とタッグを組んだオペラの数々は、私の音楽体験の中でも特別なもの。エウリディーチェ、ドン・カルロ、アラベラ……。心からご冥福をお祈りします。（て）

春の祭典を聴いて絵を描くワークショップ。同じ音楽から多彩な表現が生まれて、面白かった。10月1日には、演奏とアニメーションの力によって、子どもたちの絵にどのように「いのち」が宿るか、とても楽しみ。（樹）

もうすぐ、エントランスホールのオルガンの修理が始まりそうだ。約3～4か月を要すること。生みの親でもあるオルガン製作工房の職人さん達が、水戸に泊まり込みで作業にあたってくださる。復活が待ち遠しい。（中）

水戸芸術館の主な10月のスケジュール

コンサートホール ATM

■みる☆ハルサイ 2台ピアノでストラヴィンスキー

10/1（土）14：00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥1,200

（ギャラリー入場券提示の方は ¥1,000）

小学生 ¥800（未就学児はご入場不可）

■水戸芸術館復興支援チャリティー・コンサート

“芸術の灯を再び”

～潮田益子、工藤重典、吉野直子による祈りと希望の音楽～

10/12（水）19：00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥3,000 / 学生 ¥1,000

■ちよっとお昼にクラシック 鈴木大介

—ソロでデュオでギター三昧—

10/22（土）13：30 開演

料金 [全席指定] ¥1,200（1ドリンク付き）

現代美術ギャラリー

■『CAFE in Mito 2011—かかわりの色いろ』展

7/30（土）～10/16（日）9：30～18：00 ※入場は17：30まで
[休館日] 月曜日

※2011年10/10（月・祝）は開館、翌10/11（火）休館

[入場料] 一般 ¥800、団体（20名以上）¥600

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

「アート ウェンズデー」本展開期中は毎週水曜日 入場無料

■『CAFE in Mito 2011—かかわりの色いろ』 ギャラリー・コンサート

10/8（土）五十嵐美香（マリンバ） 増淵亜依（ピアノ）

12：00～/13：30～（各回約20～30分）

※料金は展覧会入場料に含まれます。

■「ダンサー・イン・ザ・ギャラリー」

10/15（土）岩淵多喜子 11：00 / 13：30 / 16：00

※料金は展覧会入場料に含まれます。

茨城の主な10月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・豊嶋泰嗣 ヴァイオリン・リサイタル 10/22（土）18：00 開演

■常陸大宮市文化センター ロゼホール TEL / 0295(53)7200

・みんなで楽しもう 音の広場 by 東京パーカッション・シンフォネット
10/23（日）13：00 開演

■ノバホール TEL / 029(852)5881

《つくば国際音楽祭》

・英国女王陛下の近衛軍楽隊 10/7（金）19：00 開演

・近藤嘉宏 ピアノリサイタル 10/16（日）14：00 開演

■鹿嶋勤労文化会館 TEL / 0299(83)5911

・高嶋ちさ子コンサート「ちさ子の部屋」 10/29（土）15：00 開演

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

2011年10月発行 第160号

編集発行 / 水戸芸術館音楽部門

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

tel:029-227-8118 fax:029-227-8130

ankmr@arttowermito.or.jp

<http://arttowermito.or.jp/>

編集 / 水戸芸術館音楽部門（五十音順）：石井亮子

大金絢子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃

デザイン / 大金絢子

印刷所：株式会社あけぼの印刷社

次号は・・・あのピアニストが、

遂に水戸にやって来る！！